

看護，コ・メディカル，スポーツ分野における 学生のコミュニケーション能力向上のための授業改善

Class Improvement for Communication Skill Development of Students in The Fields of Nursing, Paramedic and Sports

林 康弘, 小野寺 妙子

Yasuhiro HAYASHI, Taeko ONODERA

帝京平成大学地域医療学部

Faculty of Community Health Care, Teikyo Heisei University

Email: {yasuhiro.hayashi, t.onodera}@thu.ac.jp

あらまし：看護，コ・メディカル，スポーツ分野での人材には，患者やその家族，コーチとプレイヤー，プレイヤー同士の間で高いコミュニケーション能力が求められる。一方で，社会人経験のない学生にコミュニケーション能力の重要性を認識させることは難しい。この改善を目的に，昨年度よりビジネスとコミュニケーションの科目群において，この分野を目指す学生のコミュニケーション能力向上のための教材と演習問題を作成し，これらを用いた授業と科目間連携を図ってきた。本取り組みの詳細について述べる。
キーワード：教材作成，教材共有，科目間連携，健康医療スポーツ，コミュニケーション

1. はじめに

看護，コ・メディカル，スポーツ分野での人材には，患者やその家族，コーチとプレイヤー，プレイヤー同士の間で高いコミュニケーション能力が求められる[2, 3]。一方で，社会人経験のない学生にコミュニケーション能力の重要性を認識させることは難しい。この改善を目的に，昨年度よりビジネスとコミュニケーションの科目群において，この分野を目指す学生のコミュニケーション能力向上のための教材と演習問題を作成し，これらを用いた授業と科目間連携を図ってきた[1]。本稿では，本取り組みの詳細について述べる。

本取り組みで挙げられる課題として，次の項目がある。（課題1）本学では，ビジネスとコミュニケーションに関わる科目が複数開講されているが，体系化が不十分で，重複している内容，看護，コ・メディカル，スポーツ分野に特化した内容が不足している。（課題2）社会人経験がないために生ずる学生の経済の基礎的な内容理解（社会の仕組み，企業の役割等）が不足している点，（課題3）学習意欲に関して，就職を意識する高学年とそうでない低学年の学生との間に差がある点，である。

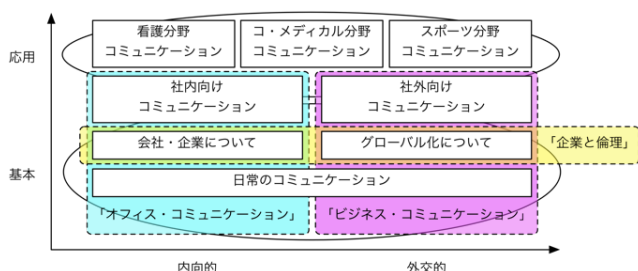


図1 コミュニケーション能力と対象科目群の関係

（課題1）に対しては，昨年度よりビジネスとコミュニケーションに関する科目群「ビジネス・コ

ミュニケーション」，「オフィス・コミュニケーション」，「企業と倫理」において（いずれも学部生1～4年生向け選択科目），ビジネスシーンでのコミュニケーション能力を向上させる教材と演習問題を作成し，これらを用いた授業展開と科目間連携を図ってきた。図1にコミュニケーション能力と対象科目群の関係を示す。「オフィス・コミュニケーション」では，社内向けのコミュニケーション，「ビジネス・コミュニケーション」では，仕事の円滑な進め方，社外向けコミュニケーション，「企業と倫理」では，企業とは何か，企業の社会的責任，社会人としての心得などを取り扱う。

（課題2）に対しては，コミュニケーションの授業内容に経済の基礎的な内容（社会の仕組み，企業の役割等）を盛り込み，いわゆる一般常識として取り扱われる範囲を学生に授業するようにした。

（課題3）に対しては，授業内でのグループワークとして，学生にあるコミュニケーション場面をロールプレイさせ，他の学生がその様子をスマートフォンにて動画撮影する。撮影された動画に基づき，学生間でコミュニケーションの改善策をディスカッションさせる動画掲示板を用意した。

2. 看護，コ・メディカル，スポーツ分野の学生向けコミュニケーション能力向上のための教材・演習問題

教科書は学生が短時間で読み進められるように要点をまとめた短い文章と画像から構成される。作成にはHTML5とCSSを使用し，学生のスマートフォンでも閲覧可能とした。教材ファイル一式はクラウドストレージサービスDropboxに限定公開され，本学で使用している学習管理システム(manaba course2)からこのファイルを外部参照するようにした。演習問題では，専門用語の確認，シーンに合わせたコミ

コミュニケーションの選択などが出題される。問題の配信にも学習管理システムのテスト機能を使用した。これらの教材・演習問題を授業内で使用し、特に、演習問題については学生が満点になるまで反復学習させている。

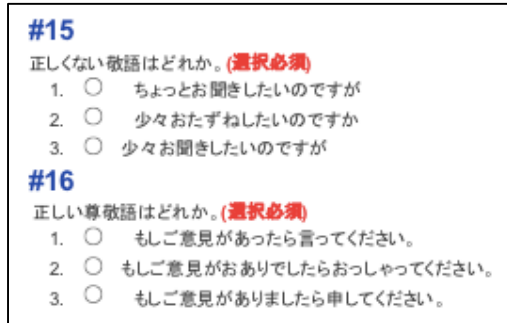


図2 開発した演習問題の一例

3. 経済の基礎的な内容と動画掲示板の導入

授業にてビジネスに関するコミュニケーションを取り扱う上で、社会人経験のない学生にビジネスシーンをよりイメージしやすくさせるために、科目「企業と倫理」の前半で行う経済の基礎的な内容を導入した(表1)。

表1 導入した経済の基礎的な内容

1	2048年頃の世界
2	経済とは
3	企業とは(社会的役割・組織形態・経営・雇用等)

また、グループワーク向けの動画掲示板は Java Servlet による Web アプリケーションとして開発され、データベースに PostgreSQL を用いた。学生は学習管理システムの授業ページから外部リンクにより動画掲示板にアクセスし、動画のアップロードとコメントの書き込みが可能である。

4. 看護、コ・メディカル、スポーツ分野の学生による動画を用いたグループワークに向けた事前調査

看護、コ・メディカル、スポーツ分野の学生は、学部期間にそれぞれの分野の専門的な知識・技能を履修する。このため、理系学生に比べて、情報機器の操作を苦手にする学生が多い。看護、コ・メディカル、スポーツ分野の学生でも動画を撮影し、グループワークを行えるかどうか、事前調査を行なった。

事前調査では、2016年度「コンピュータ演習2」を履修する同学部学科の3年生女子2名を対象とした。彼女らでも動画撮影と動画編集を行える幾つかの組み合わせを検討・試行したところ、ビデオカメラとノートパソコンの組み合わせでは、操作しやすい動画編集ソフトであっても学生生活上、その持ち

運びや動画の取り込みに難があり、iPhone と動画編集アプリ iMovie が最も使いやすく、他学生にも勧めやすいとコメントがあった。このコメントに基づき、実際に彼女らに日々の学生生活の様子を動画撮影してもらい、動画掲示板にアップロード可能なことを確認した。

5. 学生の主体的な学習へ発展させる一考察

教師が一方向に説明する講義形式の授業では、学生は授業内でコミュニケーションの練習を十分に行えない。これでは、コミュニケーションの授業が目指す専門分野の人材が有するべき高いコミュニケーション能力の育成につながらない。このため、本取り組みにて用意されたツール(教材・演習問題、動画掲示板)を組み合わせて活用することが考えられる。具体的には、予習に教材を、授業にて動画掲示板によるグループワーク、復習に演習問題を用いる。一連の学習サイクルの構築により学生の主体的な学習へ発展させることが期待できる。

6. まとめと今後の課題

本稿では、看護、コ・メディカル、スポーツ分野を目指す学生のコミュニケーション能力向上のための授業改善の取り組み現状について述べた。ビジネスとコミュニケーションの授業にて教材と演習問題を作成し、これらを用いた授業展開と科目間連携を図ってきた。また、授業内での積極的なコミュニケーション練習を可能とするツール(教材・演習問題、動画掲示板)を用意した。

今年度秋学期のコミュニケーション授業において、これまでに用意した教材・演習問題、動画掲示板を組み合わせた授業を展開し、看護、コ・メディカル、スポーツ分野の学生のコミュニケーション能力向上にどれだけ寄与できるか試みる。

参考文献

- [1] 林 康弘, 小野寺 妙子: “医療スポーツ系学生のコミュニケーション能力向上のための教材開発と実証,” 教育システム情報学会 第41回全国大会, 2016年8月.
- [2] 上野 栄一: “看護師における患者とのコミュニケーションスキル測定尺度の開発,” 日本看護科学会誌 25巻 2号, pp. 47-55, 2005年6月.
- [3] 杉山 佳生: “スポーツ実践授業におけるコミュニケーションスキル向上の可能性,” 大学体育学, 5: 3-11.
- [4] 松崎 秀隆, 吉村 美香, 原口 健三, 森田 正治, 高嶋 幸男: “卒業前教育としてコミュニケーション能力を醸成する意義,” 日本理学療法士協会理学療法学 Supplement, 2016.
- [5] 市岡 由希恵, 井上 博行, 前田 陽一郎, 高橋 泰岳: “コミュニケーションロボットののための人間の身体動作に基づく性格推定手法,” 日本知能情報ファジィ学, ファジィシステムシンポジウム講演論文集 32, pp105-110, 2016.